令和元年度 中学生の税についての作文・習字

米子市長賞受賞作品

鳥取県西部納税貯蓄組合連合会の主催により、「令和元年度中学生の税についての作文・習字」表彰式が令和元年12月8日に米子しんまち天満屋で行なわれました。

この募集事業は、次世代を担う中学生の皆さんに、作品の応募を機会に税を身近に感じ、税に対する正しい知識を深めてもらうことを目的として毎年開催されています。

多くの応募者の中から、作文の部では田中綾（たなかあや）さん（湊山中学校三年）が、習字の部では倉敷羽名（くらしきはな）さん（湊山中学校二年）が米子市長賞を受賞されました。受賞作品をご紹介します。

■問合せ　収税課（☎23―5161、FAX23―5397）

湊山中学校二年
倉敷羽名「振替納税」

消費税の増税について

湊山中学校三年　田中　綾

最近、テレビのニュースや新聞などで、消費税が現在の八パーセントから十パーセントへ増税する、という話を知りました。それを知った当初は、ただ単に消費税が上がれば自分達の支出が増えてしまうので絶対に反対だと考えていました。しかし、国民が負担する消費税がどのように使われているのかを知ったことによって、私の考え方は少し変わりました。

私は、これまで消費税のことについては特に関心はなく、自分から知りたいと思うことはなかったし、知る機会もあまりありませんでした。しかし、三年生になり公民の授業が始まったり、税について詳しく書かれたパンフレットが配られたりして、税の事についてふれる機会がでてきました。そんな中で、私たち国民が負担している消費税は、私達の生活を豊かなものにしていくために使われると知り、私は消費税の増税も、絶対増税するべきだとは思いませんが、しても良いのではないかという考えをもつようになりました。

私達国民の支払う消費税は、教育や医療・福祉、みんなで使う道路や建物をつくる公共事業、警察・消防など、全て私達の生活を豊かにしたり、みんなが安心・安全に暮らしたりするための費用にあてられているそうです。

現在、日本は少子高齢化によって高齢者の国民全体に占める割合が増加し、子供の出生率は低下しているため、今後は人口が少なくなっていくと考えられています。よって、増加する高齢者を支えるための医療や福祉、年金などの費用は、人口が減っていくのに対し、どんどん増えていきます。少ない人口でそれを補っていくには、国民一人あたりが、負担する額を増やさなくてはいけません。つまり、それが消費税が増税される理由の一つなのではないかと思います。

しかし、このままどんどん少子高齢化が進み、それに伴って消費税がどんどん上がっていけば、私達国民の生活が苦しくなってしまいます。国民の生活を充実させるために集めているはずなのに、それでは全く逆効果になってしまうと思います。それを防ぐためには、少子高齢化をどうにかして止めること、私達がこのような問題に関心を持つことが必要だと思います。私も、今後、大人に近づくにつれて税のことや、それ以外の日本全体の問題について知る機会が増えると思うので、もっと考えを深めていけるといいと思います。

▲（左から）田中さんと倉敷さん